

令和4年1月24日  
教育庁職員課

教職員等によるセクシュアル・ハラスメント及び  
パワー・ハラスメントに関する調査結果について【訂正】

1 調査の目的

この調査は、教職員等によるセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントに関する実態を把握し、職場におけるセクシュアル・ハラスメント等防止に係る意識の高揚と、重大かつ悪質な非違行為の根絶を図るために実施するもの。

2 調査について

(1) 調査対象：福島県内の公立学校に勤務する全教職員等

※ 会計年度任用職員（スクールカウンセラー、部活動指導員等）を含む。

(2) 調査内容：職場におけるセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害等について、記名式で行う。

(3) 調査項目

ア 「職場におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがあるか。

イ セクシュアル・ハラスメントにあたる言動を受け、不快だったことがあるか。

ウ 不快だったことがある場合、どのような内容か。

エ 「職場におけるパワー・ハラスメント等の防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがあるか。

オ パワー・ハラスメントにあたる言動を受けたことがあるか。

カ 受けたことがある場合、どのような内容か。

(4) 調査方法

ア 県立学校：Google Forms を活用したオンライン上でのアンケート調査

イ 市町村立学校：アンケート用紙を用いた調査

(5) 調査期間

ア 県立学校：6月21日（月）から6月30日（水）までに回答

イ 市町村立学校：市町村教育委員会ごとに結果をとりまとめ、8月6日（金）までに県へ報告

(6) その他

調査の最後に、「今回の調査で被害があると答えた方は、被害の詳細をメールでお知らせください。また、あなた以外の方がハラスメントの被害にあった場合なども、メールで情報提供をお願いします。」と情報提供を呼びかけた。

### 3 調査結果

#### (1) セクシュアル・ハラスメント

ア 県教育委員会「職場におけるセクシュアル・ハラスメント等の防止等に関する指針」(令和2年5月28日)を読んだことがありますか。

(ア) 県立学校の回答者数	4,587名	
はい	4,253名	はいの割合 92.7%
いいえ	334名	

(イ) 市町村立学校の回答者数	13,517名	
はい	11,232名	はいの割合 83.1%
いいえ	2,285名	

(ウ) 合計	18,104名	
はい	15,485名	はいの割合 85.5%
いいえ	2,619名	

イ 指針が出された令和2年5月28日以降、職場における上司や同僚から、セクシュアル・ハラスメントにあたる言動を受け、不快だったことがありますか。

(ア) 県立学校の回答者数	4,587名	
はい	41名	はいの割合 0.90%
いいえ	4,546名	

(イ) 市町村立学校の回答者数	13,517名	
はい	22名	はいの割合 0.16%
いいえ	13,495名	

(ウ) 合計	18,104名	
はい	63名	はいの割合 0.35%
いいえ	18,041名	

ウ 不快だったのは、次のうちどれですか。(複数回答可)

(ア) 県立学校

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	16
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	2
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	10
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	2
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	12
カ その他	14
合計	56

(イ) 市町村立学校

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	4
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	2
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	0
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	1
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	2
カ その他	13
合計	22

(ウ) 合計

セクシュアル・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 性的な話・冗談等を言われ不快であった	20
イ 必要以上に身体を触られ不快であった	4
ウ 周囲に人が居るところで容姿を話題にされ不快であった	10
エ 性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい不快であった	3
オ 男のくせに、女のくせに等と言われ不快であった	14
カ その他	27
合計	78

(2) パワー・ハラスメント

ア 県教育委員会「職場におけるパワー・ハラスメントの防止等に関する指針（令和2年5月28日）」を読んだことがありますか。

(ア) 県立学校の回答者数	4,587名	
はい	4,195名	はいの割合 91.5%
いいえ	392名	
(イ) 市町村立学校の回答者数	13,517名	
はい	11,121名	はいの割合 82.3%
いいえ	2,396名	
(ウ) 合計	18,104名	
はい	15,316名	はいの割合 84.6%
いいえ	2,788名	

イ 指針が出された令和2年5月28日以降、職場における上司や同僚から、パワー・ハラスメントにあたる言動を受けたことがありますか。

(ア) 県立学校の回答者数	4,587名	
はい	109名	はいの割合 2.4%
いいえ	4,478名	
(イ) 市町村立学校の回答者数	13,517名	
はい	<u>155名 (+2名)</u>	はいの割合 1.1%
いいえ	<u>13,362名 (-2名)</u>	
(ウ) 合計	18,104名	
はい	<u>264名 (+2名)</u>	はいの割合 1.5%
いいえ	<u>17,840名 (-2名)</u>	(+0.1%)

ウ 受けた言動は、次のうちどれですか。(複数回答可)

(ア) 県立学校

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	4
イ メールや SNS 等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	24
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	20
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	57
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	29
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	21
キ その他	28
合計	183

(イ) 市町村立学校

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	0
イ メールや SNS 等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	17
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	22
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	<u>48(+1)</u>
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	<u>19(+1)</u>
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	<u>17(+1)</u>
キ その他	33
合計	<u>156(+3)</u>

(ウ)合計

パワー・ハラスメント アンケート項目	件数
ア 叩かれたり、蹴られたり、物を投げつけられたりした	4
イ メールや SNS 等を含め、暴言や名誉毀損があったり、侮辱されたりした	41
ウ 厳しく叱責し続けられたり、改善点の具体的指示なく、繰り返し文書の書き直し等を命じられた	42
エ 威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした	<u>105(+1)</u>
オ 実現不可能なことや、無駄な業務の強要をされた	<u>48(+1)</u>
カ 仕事を与えない・隔離・仲間外し・無視などされた	<u>38(+1)</u>
キ その他	61
合計	<u>339(+3)</u>

#### 4 結果の総括

##### (1) セクシュアル・ハラスメント

- 「その他」27件に次ぎ、「性的な話・冗談等を言われ不快であった」が20件と多かった。
- セクハラのはつきりはなくとも、相手がセクハラと受けとめる場合があることから、引き続き、アンケート調査の結果を踏まえて注意を促す必要がある。
- マタニティ・ハラスメントの認識や、男性に対する「男のくせにと決めつける発言」についてセクハラと受けとめるなど、セクハラに対する一定の理解が進んだことがうかがえる回答が多数あった。今後も、性的マイノリティに対する理解など、人権意識を高めていく必要がある。

##### (2) パワー・ハラスメント

- 「威圧的な行為をされたり、ミスを責任転嫁されたりした」が105件と最多であった。
- パワハラのはつきりが、セクハラのはつきりの約4.3倍と多かった。
- お互いの立場を尊重する、風通しのよい職場作りが必要である。

#### 5 今後の対応

- 非違行為と認められる場合は、事実確認を行い、厳正に対処する。
- セクシュアル・ハラスメント等及びパワー・ハラスメントの防止等に関する指針のさらなる啓発に努めるとともに、校内サービス倫理委員会や研修等のテキストとなる、「信頼される学校づくりを職場の力で」の改定において、ハラスメントに関する項目をさらに充実させることにより、ハラスメント行為の防止を図る。
- 引き続き、教職員相談窓口及びハラスメント相談窓口の周知に努める。